

こつつんこつつん

ぶたれる土は

よいはたけになつて

よい麦生むよ。

朝からばんまで

ふまれる土は

よいみちになつて

車を通すよ。

ぶたれぬ土は

ふまれぬ土は

いらぬ土か。

いえいえそれは

名のない草の

おやどをするよ。

金子みすず

童謡詩人の金子みすずさんは、幼いころおばあさんに連れられてお寺参りをよくされたそうです。きっと阿弥陀様（あみださま）という仏様についてのお話をそこでよく聞かれていたのでしょう。「どのようなのちも尊い」と、ご覧になるその仏様のお心が詩によくあらわれています。

「好き」「嫌い」「役に立つ」「役に立たない」「使える」「使えない」というものさしで何でも見てしまう私。そんな私に「必要のないのちなんてこの世の中にひとつもない」「無駄なものなどない」と、金子さんは詩を通じて語ってくれています。

善行寺 名和康成